アジア発の「昆虫食総合知」の創出～国際的・学際的連携研究を通じて

アジア・オセアニア研究教育機構 准教授：錢 琨 (QIAN Kun)（kkcs2000@icloud.com）

【エントリポイント】

環境、食料

【概要】

背景 未来のタンパク源として期待される昆虫食が世界的に推進されており，関連する基礎研究，サプライチェーン整備，商品開発と市場環境の改善が進んでいる。

現状の課題 ①昆虫食の受け入れと食慣習としての定着が依然難しい。②日本・アジアの食文化に基づくノウハウは利活用化されていない。③自然科学と人文・社会科学を跨ぐ分野融合的な研究開発が少ない。

目的 昆虫食に対する理解を促進し，抵抗感情を減らし，食慣習として定着させる。

解決法 ①分野融合的研究を行い，食行動の主体となる人間を中心とした昆虫食研究と商品開発を推進する。②日本・アジアの食文化に基づいたノウハウを活かし，アジア発の昆虫食総合知を創出する。

【研究計画および到達目標】

本FS研究を実施する１年間では以下の計画と目標を設ける。

①右記ポンチ絵のようにアジアでの学際的研究ネットワークの構築と第２回アジア昆虫食シンポジウムの開催を実現させる。

②タイ・ベトナム・中国でのフィールド調査を実施する。

③申請者が実施中の昆虫食心理行動研究について査読付き論文２編，査読なし論文１編を掲載させる。

④大型予算を申請する準備（研究構想と研究チーム編成）を整える。

【強み・優位性（これまでの成果含む）】

①申請者は2016年から昆虫食の心理行動研究を行い，国内外で異分野の研究者とのネットワークを持っている。

②昨年11月に第１回アジア昆虫食シンポジウムを開催し，タイ・インドネシア・日本の発表者と，アジア7カ国・70名以上の産学官を跨いだ参加者が集まった。

【応用可能性・将来展開】

①分野融合の学術研究に基づいた信頼性の高い昆虫食の開発・推進

②日本・アジアの食文化や食慣習に即した昆虫食の開発・推進

③アジア発の昆虫食ノウハウや具体的な商品・意匠を世界に発信。

④日本・アジアの昆虫食研究の拠点（リサーチコア）を創出。

【その他の情報】

〇キーワード：昆虫食、昆虫資源、食文化、食行動、フードリテラシー

〇科研費審査区分表における小区分：家政学および生活科学、昆虫科学

〇知的財産： 昆虫食開発に伴う意匠等

〇関連する論文：Qian & Yamada (2020) *Frontiers in Nutrition* (IF6.59)

〇関連URL：https://youtu.be/MuONZj0pnNI